△大美晩報電臺　十一月二十五日　英語放送

（倫敦發）當地政治外交觀測者は華府會談は少くとも三ケ月の期間を有する臨時協定の討議に集中されあるさいふことの確信を一層深めつつある。

若し華府會談が成功するとすれば、九ケ國條約に從つて固定的な協定を行ふ樣に進められるものと信ぜられてあるが、たとへ臨時的な協定にしても成立し得る機會は二對一の割合であると見てある。もし米國が日本に對して南支、佛印から軍隊を撤收せしめ、南方及北シベリアに今後侵略を行はざるべき旨の要求を提出しても驚くに値しない。即ち佛印からの撤兵はビルマ公路の安全を意味するものであり且つ其處に關係ある諸困難を除去するからである。

◎重國日本人、重慶より反日放送

△神州日報　十一月二十二日

（重慶二十一日發）國際放送電臺は對日宣傳を強化するため二十一日より特に日本の事情に精通する者をして臺灣向け放送を行ふことになつた。二十一日は在米反侵略の居留日本人藤井周爾の創設する同胞朝刊の十週年記念日に當るので午后二時在支反侵略の日本人作家青山和夫が放送する、又二十二日午后六時より王良生が「日本よ何處へ行く」と題し放送し、二十三日午后六時よりは日本の反戰同志高山明雄が放送しその后は邵毓麟、郭沫若、許世英等が續々對日放送を行ふことになつてゐる。波長二五、二K、呼出しXGVQ

◎ソ聯對日共同戰線に加入か

△マニラ電臺（UP電）　十一月二十六日

（紐育發）リトヴィノフは太平洋共同作戰を目的とする相互援助の交渉の訓令及びソ聯の作戰基地を米國に共與し日ソ中立條約を無視する事によつて日本を壓迫する訓令を華府へ齎しつつあると云ふインスタンブールからの東京ラジオ放送をUBSは傍受した。

◎日本、泰國防衛を申入れ

マニラ電臺（UP電）　十一月二十六日

（倫敦發）責任筋よりの報道によれば日本高級代表は泰國に對し同國の防衛接收方口上を以て申込んだ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/